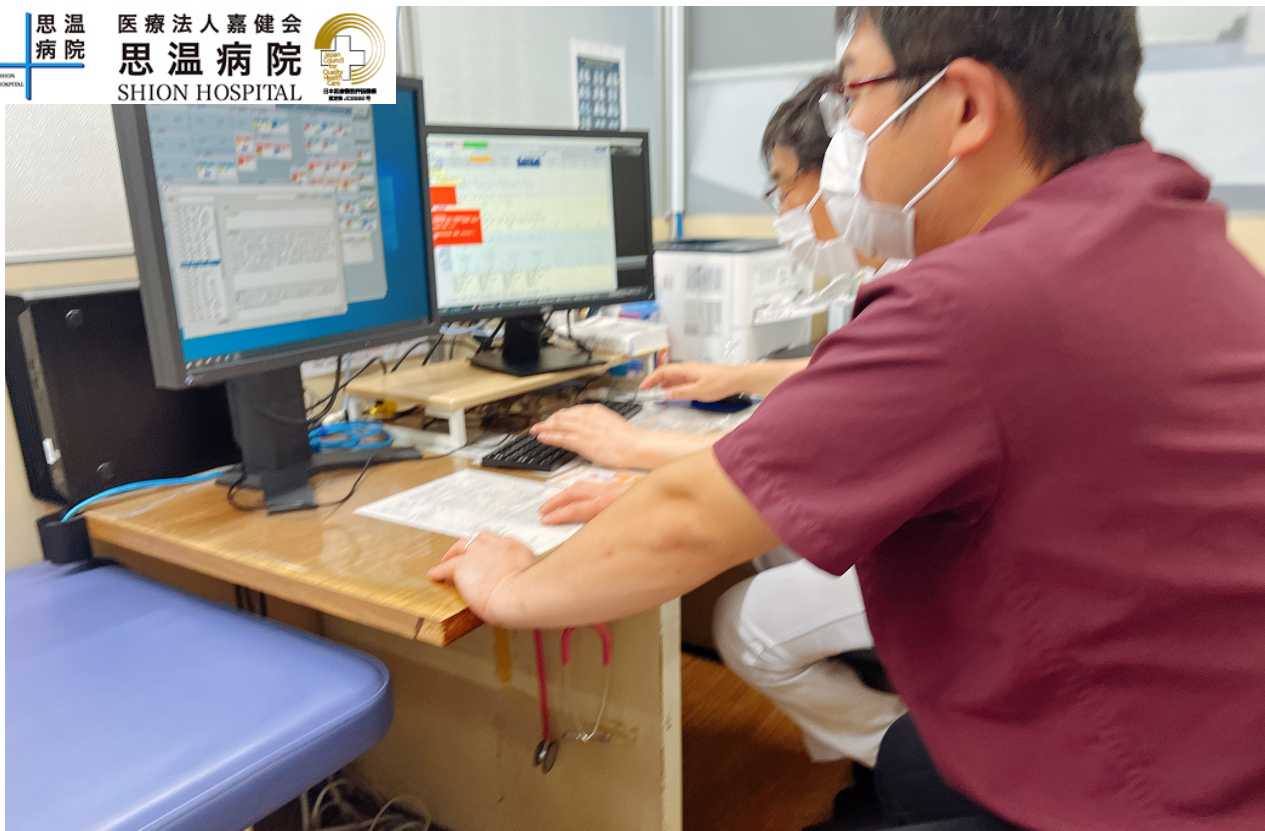


しおんだより VOL.24



毎週、カンファレンスを開催しています

体調がすぐれなかったり、診療所や大きな病院からご紹介されたりと、理由は様々ですが、当院でご入院いただく方の治療を責任を持って行う医師が必ずいます。主治医といたり、担当医といたり、病院によっても世代によっても少し言い方は変わるのでと思いますが、患者さんの治療方針を考え、ご本人やご家族様にもご説明し、最も適切と思われる医療を提供していく責任を持つわけです。

ご入院患者さんの診療について、主治医だけでなく、複数の医師で症例の検討を行いながら、よりよい治療方針を打ち出せるように、定期的に会議をしています。

当院では、医師だけでなく、看護師、薬剤師、管理栄養士、理学療法士、作業療法士、柔道整復師、言語聴覚士などの多職種が連携する「チーム医療」を推進していますが、これは、医師の視点や知識だけで行うよりも、質の高い医療が提供できるからです。

また、医師の間でも、主治医だけでなく、複数の医師で治療方針を考えたり今後の予定を考えたりするカンファレンスを毎週開催しています。三人寄れば…ということわざもありますが、経験や専門性も異なる医師同士が、患者さんにとってより良い治療は何かを考え話し、治療に当たることで、早く良くなっていただくことを目指しています。

チームを組んでいるのは、医療専門職だけではありません



医師にしても看護師などだけでなく、診療には不可欠な様々な検査を行なう臨床検査技師や診療放射線技師や給食を担当する調理師も免許を持っています。免許という字は「免じて許す」という風に書きますが、持っていない人はやってはいけないことを「お前に免じて許す」と国が決めてくれたものが免許だと私は考えています。

ただ、入院生活を落ち着いて送っていただくためには、こういった免許を持たない方々の活躍も不可欠です。看護師さんと連携して患者さんに対応するケアワーカー（＝看護助手）や、お部屋や廊下の掃除をしてくださるスタッフもそうです。また、様々な事務手続きをしてくれる医事課のスタッフや入退院の調整をするスタッフも、

安心して治療を受けていただくために重要な役割を果たしています。みんなで、まさにチーム一丸となって、患者さんの治療に当たっていきたいと考えています。

おかげさまで、2年間、継続することができました！



先日少し早くお店に着いてしまい、1人で手持ち無沙汰だったので、2年間続けられた自分にそっとお祝いをしました…！

今、お読みいただいている「しおんだより」は、病院のことを皆様に身近に感じていただきたいと思います、何か良い方法はないかなと始めたものです。

第1号から初めて、本号で24号。毎月欠かさず書いてきましたからちょうど2年が経ったということになります。2年前の今頃は、新型コロナウイルス感染症が日本にやってきましたが、まだ、ワクチンも、治療薬も認可されておらず、不安な気持ちで過ごしていた頃だった気がします。今は、ワクチンも治療薬も整備され、大分雰囲気が変わってきました。まさに、ウィズコロナの時代になったと思います。

日記は三日坊主の私が、ここまで続けて来れているのも、時々「読みました」とか「楽しみにしてます」という皆様の声のおかげです。これからも毎日の中で気が付いたことなども含めて皆様にお伝えできればと思います。引きつづきよろしく願います。（文責：狭間研至）

しおんだより 第24号 発行日：令和4年10月15日

発行人：狭間研至 発行元：医療法人嘉健会 思温病院

☎557-0034 大阪市西成区松1-1-31 電話06-6657-3711 HP: www.shion-hp.or.jp